

カンザス・シティ (1996)

KANSAS CITY

メディア 映画

ジャンル ドラマ 音楽

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 118分

初公開日 1996/12/14

公開情報 コムストック

【解説】

異才アルトマンが、ジャズ華やかかりし時—30年代の、自身の生まれ故郷カンザスを舞台に描く、このところ連発した群像劇とは一味違ったノスタルジックかつクールな作品。

リー扮する主人公ブロンディ（実は黒髪だが途中ジーン・ハーロウばりにプラチナに染める印象深いシーンがある）は、黒人マフィアを手玉に取ろうとして失敗し捕われの身の夫を救おうと、大統領顧問夫人のキャロリンを誘拐する。いわば、この二重の誘拐劇を核に、ちょうど行われつつある選挙の醜悪な舞台裏（ブシェミが不正の仕切り屋を怪演）が描かれ、それらを繋ぐように、マフィアのボス（ベラフォンテ）が大変なジャズ狂と言う設定の上、H・ウィルナー・プロデュースによる本格的な演奏陣実演のジャム・セッションの様子が挿入され、作品に膨らみとテンポを与えている。ボスを始め登場人物が皆食えない連中で、結局、夫への愛情ゆえ先行きを顧みず重大犯罪に走る主人公が最も純粹である、というのがいかにもアルトマンらしい皮肉な人間観。特にその辺りが露になる後半は往年のタッチが復活したと言っていい出来で、妙にまとまりがいいかあるいは散漫かの近作に不満を持っていた古くからのファンも満足行くことだろう。キャストでは、いよいよ本領発揮のリーも素晴らしいが、良妻を装いながらアヘン中毒という複雑なキャラクターを演技というよりも生ききっている、キャロリン役のM・リチャードソンが圧巻だ。

【クレジット】

監督	ロバート・アルトマン	Robert Altman
製作	ロバート・アルトマン	Robert Altman
	マシュー・セイグ	Matthew Seig
	デヴィッド・C・トーマス	David C. Thomas
脚本	ロバート・アルトマン	Robert Altman
	フランク・バーハイト	Frank Barhydt
撮影	オリヴァー・ステイプルトン	Oliver Stapleton
音楽	ハル・ウィルナー	Hal Willner
出演	ジェニファー・ジェyson・リー	Jennifer Jason Leigh
	ミランダ・リチャードソン	Miranda Richardson
	ハリー・ベラフォンテ	Harry Belafonte
	マイケル・マーフィ	Michael Murphy
	ダーモット・マローニー	Dermot Mulroney
	スティーヴ・ブシェミ	Steve Buscemi
	ブルック・スミス	Brooke Smith
	ジェーン・アダムス	Jane Adams